

西藤島小だより

☆学校教育目標『自主と創意に満ちた人間性豊かな児童の育成』

☆目指す児童像「学ぶ子」「やさしい子」「強い子」

福井市三郎丸1丁目1410 TEL (0776) 22-8820 FAX (0776) 22-6809

<http://www.fukui-city.ed.jp/ni-fuji-e/> E-mail: ni-fu-e@fukui-city.ed.jp



平成29年9月21日発行

№5

福井市西藤島小学校

実りの秋！～稲刈り体験 5年～

爽やかな秋風がそよぐ頃となった9月11日(月)、5年生による稲刈りが行われました。西藤島地区の「三西ファーム」の方々、県や農協の方々など、たくさんの皆様のご協力やご指導をいただきました。子どもたちは、ぬかるんだ田に足をとられながら、それでも一生懸命に稲刈りに取り組んでいました。人間の手で刈り取ること、みんなで協力して刈り取ることの大切さを学んだことと思います。



私も毎年稲刈りの様子を見学しながら、いろいろなお話を聞くことができ、そのたびに勉強することが多くあります。例えば今ではあまり見かけなくなった「はさがけ」。日本の稲作は3000年の歴史を誇りますが、「はさがけ」はまさに先人の知恵です。

刈り取った直後の粃の水分は20～30パーセントとかなり多いです。水分が多い粃はそのままにしておくと、腐ったり、変な臭いがしたり、カビが生えたり、芽が出たりしてしまい、お米の品質が悪くなります。たとえば、水分を22パーセントふくんでいる粃は、23℃で保管するとたった3日しか品質が保てません。そのため、刈り取った稲は早いうちに乾燥させて、粃の水分量を減らす必要があるのだそうです。

「はさがけ」の利点としては、刈り取った稲を高水分の水田から空气中に持ち上げ、日光と風によって乾燥することで乾燥効率を上げるという意味もあります。

現在では、コンバインにより粃で収穫することがほとんどですので、その粃をカントリーエレベーターやライスセンターなどの共同乾燥施設、あるいは農家保有の火力乾燥機で機械乾燥させることが主流になっています。しかし、どれだけ機械乾燥が発達しようとも、お米の味においては自然の風と日光を利用した「はさがけ」には勝てないそうです。

やはり、人間が口にすることは、自然に近いものが最適なのですね。

運動の秋！～もうすぐ体育大会～



目の練習に励んでいます。

朝、8時15分になると、校舎のあちこちから一斉に応援の練習

運動の秋、9月28日(木)には「秋季校内体育大会」(予備日29日)が予定されています。全校児童248名が赤組、白組に分かれて、毎日応援や種



の音が響き渡り、いきなり学校全体が体育大会モードになります。自然や暦からも季節を感じ取れますが、学校にいと子どもたちからも季節を感じることができます。改めて子どもたちって素晴らしいなあと思います。

時々ふっと思ふことがあります。体育大会って子どもたち全員が楽しみにしているのかなあつと。もちろん楽しみにしている子も数多くいます。でも、「いやだなあ」と思っている子もいるはず。ただ間違いなく、体育大会は全ての子どもたちに大切なことを教えてくれます。喜んだり、自信をもったり、やりきった感を持ったり。逆に悔しかったり、悲しかったり、落ち込んだり。そうした体験を通して子どもたちは大切なことに気づきます。それは子どもたちの成長に欠かせないスパイスとなることでしょう。



フリートークコーナー



～ 連体選手 ～



「爽やかな秋晴れのもと・・・」というセリフはよく聞きますが、この上なく晴れ渡った9月14日（火）は、まさに連体日和となりました。ほんの5日前に、100mで日本人初の9秒台を出し日本中を沸かせた「桐生祥秀選手」が走った真新しい県営陸上競技場。入っただけで約5000人の子どもたちや教員は、まだ残っているかのような、その余韻に浸ることができました。桐生選手が走った5コースに「当たった」児童は、走る前から「やったあ！5コースや！」と喜んでいました。今年の連体はそれだけ特別なものに感じました。

西藤島小学校の子どもたちは、保護者やその他関係者も含めると約5500人の大観衆の中、不安や緊張と闘い続けながらも、それに負けることなく、約1ヶ月間の厳しい練習の中で身につけたものをしっかりと出し切ってくれました。連体選手だけでなく、「チャレンジ」に出場した子どもたちも、軒並み自己記録を更新するなど、多いに盛り上げてくれました。

そんな中で、スタンドからジューッとみんなの活躍を見守る児童がいました。彼は、連体選手候補として、夏休みから毎日一生懸命練習に励んでいました。ところが、途中から足首が炎症を起こし、ついには「ドクターストップ」がかかってしまいました。大会当日は5年生も6年生も全員1回はグラウンドに立ち、走ったり投げたり跳んだりしたのですが、彼は1回もグラウンドに立つことなく、1日中スタンドからの応援でした。私も遠巻きに見ながら、本人はどんな気持ちで友達の活躍を見ているのだろうと気になっていました。

翌日、ちょうど彼と話す機会がありましたので、少し意地悪だったかも知れませんが、直接聞いてみました。「あなたは昨日、どんな気持ちで友達の活躍の様子を見ていましたか？」彼は視線を外し少し控えめに「やっぱり悔しかったです。」と答えました。しかし次に、こう答えました。

「でも、これで終わりではありません。中学校にいてもこんな機会はいくらでもあると思います。この悔しさをもち続けて、もっと頑張りたいです。」何か胸が熱くなって、彼の肩をトントンと叩いて「うん、頑張れ！」としか言えなかったです。

彼が出場する予定だった混合リレーは、8人がバトンをつなぎ見事2位を獲得しました。しかしこの2位は8人の選手と、彼も含めて2人の補欠選手、計10人でもぎ取った2位です。

競技大会は、勝った者も負けた者も、出場できなかった者も、各々がそれぞれの思いや経験をしながら成長する場です。5年生42名、6年生36名、全員で闘った素晴らしい大会でした。

